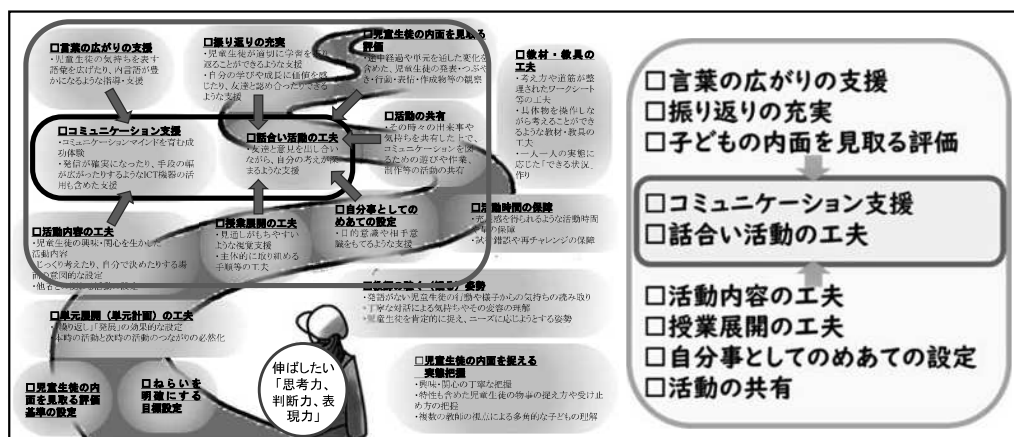


(2) 中学部 生活単元学習「中1工房でみんなのために製品をつくろう！」

以上のことを「思考力・判断力・表現力」を引き出す授業づくりのポイントに沿って考え、中学部では「コミュニケーション支援」、「話し合い活動の工夫」の2つのポイントをメインに取り上げて授業作りをしていくこととした。また、その周辺のポイントも関連が強いのではないかと話し合い、周辺のポイントも押さえて授業作りを行う必要があると考えた（図 59）。



– 123 –

今年度、中学部では年2回の研究授業を行うが、ここでは7月から8月にかけて実施した1回目の中学部1年生での研究授業についてまとめる。

ア 生徒の実態

本学部の1年生には6名が在籍している。学校生活の中ではそれぞれが自分の方法で学級の友達とかかわろうとする姿が見られ、お互いを思いやりながら穏やかに過ごすことができ、友達関係は良好である。日常生活では、一斉指導の口頭指示で、指示内容を理解して取り組むことができる生徒もいるが、個別のスケジュールや手順書を活用している生徒もいる。一斉指導であっても視覚的な支援が有効な生徒が多い。

生徒のコミュニケーションの実態としては、教師を介して気持ちを伝えようとする生徒、声をかけてもらうまで待つ生徒、急接近して気を引く生徒、身振りや気持ちカードを見せて伝える生徒等さまざまな実態が見られる。相手の意図を組むことや基礎的な伝達能力等それぞれに困難さがあり、どの生徒にも支援が必要である。教師が仲介しながらの会話する場面を設定したり、活動の終了報告や休憩の要求等コミュニケーションカードを提示して自分の意見を伝える場面を設定したりして、人とコミュニケーションする経験を積んでいる。

本学級では、これまでに自立した大人を目指そうと目標を立てて校内作業実習前後で掃除等の学習に積極的に取り組むことができた。その中で、人の役に立つことに興味をもち、掃除できれいになったこと等を賞賛されることを楽しみにする様子が見られた。また、本学級の生徒は絵を描くことやアイロンビーズを作ること、紙をちぎること製作活動や素材に親しむことが好きで、意欲をもって取り組む様子が見られる。

研究授業に取り組むにあたって、まず、大まかに捉えていた本学級生徒のコミュニケーションや話し合い活動に関する実態について、もっと詳しく把握する必要があると考えた。そこで、令和5年度の第1グループの研究で用いられた「コミュニケーション実態把握リスト」を使って実態を捉えることとした。その結果をもとに、本学級の生徒が自分の思いをもち、表現し、相手の意見を聞いて受け止める活動に取り組めるよう、生活単元学習「中1工房でみんなのために製品をつくろう!」を研究授業として計画した。

今回、生徒YとDを対象に検討を深めていくこととした。

対象生徒Yは、学級の中でも自分の意見を述べるが多く、友達とかかわりながら楽しく過ごすことができる一方、距離感が近すぎる等の様子がある。

〔表 18 生徒γの「コミュニケーション実態把握リスト」結果（一部）〕

コミュニケーションに関すること	双方向				
	表出	表出手段	コミュニケーション機器（VOCA、ICT）が自分にとって便利なツールであることがわかり、それらを活用し、自分の意思を伝えている		身体の動き 環境の把握
	双方向		周囲の社会的状況を掴んだ上での言動をしている		心理的な安定
			相手と自分との気持ちの違いに気づくことができる	△	
			相手の表情や語気から気持ちを感じとり、適した行動をしている	△	人間関係の形成
			他者とやりとりできる場面が限られている（選択制黙黙等）ことはない		
			会話の際のルールやマナーの理解している	△	人間関係の形成
	表出		状況に応じて、ふさわしい言葉遣い、音声、声の大きさと話している	△	
			相手の立場や気持ちなどに応じて、ふさわしい言葉遣いをしている	△	
			得手不得手などの自分の状況が分かり「できます」、「できません」などの返答をしている	○	心理的な安定
			得手不得手など自分のことを理解し、困ったときには他者に環境を整えてもらうように支援を求めている	○	心理的な安定 環境の把握
			相手の発信したことを自己中心的に解釈することはない	△	人間関係の形成
	受容		相手の表情や態度、語気から相手の感情を推測し、行動を変更したり調整したりしている	△	人間関係の形成

「コミュニケーション実態把握リスト」から、生徒γは基礎的なコミュニケーション能力を身に付けており、自分の気持ちのある程度まとめることができることが明確になった。また、相手の気持ちを推測すること等は少し苦手であること、できる・できない等の自分の状況の説明ができること等が分かった。以上のことより、様々な場で、自分の思いを整理し、伝える活動が必要であること、学級の友達の意見を聞き、まとめたり自分の活動に活かしたりできるような場の設定が必要であること等が分かった（表 18）。

〔表 19 生徒δの「コミュニケーション実態把握リスト」結果（一部）〕

（話し言葉、書き言葉に限らない）	双方向				
	表出	表出手段	一方的な発信ではなく、双方向のやりとりを行おうとしている		○
			独特な言葉や表現ではなく、(分かりやすい)方法で伝えようとしている		△
			身振りやサインで自分の意思を伝えている		○
			(発声)、言葉で自分の意思を伝えている		○
			単語を組み合わせて自分の意思を伝えている		×
			写真や絵カードを活用して自分の意思を伝えている		×
			機能・質問 分からないことを質問している		×
	受容		簡単な言語指示を理解し、応じている		○
			情報を総合的に受け取り、文脈に合わせた応答をしようとする		○
			言葉の理解力がある（自分の名前 身近の人の名前、身近な具体物の名前、身体部位の名称、動きを表す言葉、状態を表す言葉等）		○
			簡単な言葉での指示を <u>理解し</u> 、それに <u>応じた行動</u> をしている。（禁止や「おしまい」の言葉の意味が分かる。相手の「やめて」の身振りや言葉で行動を抑制したり、変更したりする。拒絶を示す相手の言葉や身振りに対し、行動を変更する等）		△

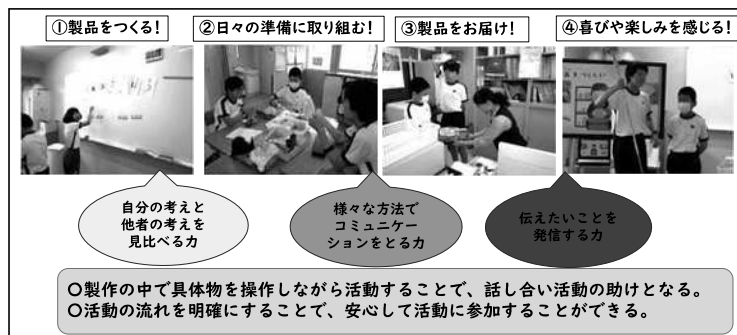
対象生徒δは、友達とかかわり、ふざけあいながら楽しく過ごす姿が学級でよく見られる。「コミュニケーション実態把握リスト」から人間関係の形成、友達との協力等に強みがあること、コミュニケーションへの意欲は高く、環境を整えることで多くの力を発揮できることがより明確になった。さらに、言語の活用等には課題があること、表出や理解を助ける支援があることでより話合いに参加できること等が示され、友達とのかかわりの中で話合い活動

を行う等本人の意欲を活かす場の設定が必要であること、見通しをもって発表等に取り組み、自信をもつことでより成長があると考えられること等が分かった（表 19）。

イ 本単元について

本単元「中 1 工房でみんなのために製品をつくろう！」では、みんなのために役立つ製品をつくるなかで、生徒が自分の役割を果たしたり学級の友達と協力したりしながら日々の準備に取り組んで、できあがった製品を周囲の人やお世話になった人にお届けし、喜びや楽しみを感じることができることをねらいとした。「お世話になっている級外の先生」「小学部の 1、2 年生」のそれぞれにアンケートをとり、掃除道具とおもちゃを作ることとなった（図 60）。

はじめに試作品を作り、改善のための話し合い活動を設定した。話し合い活動では製作したモップやブロック等の具体物を自分で使って操作



〔図 60 単元構想図〕

してから、伝えることを考えることで、話し合い活動の助けとなるのではないかと考えた。また活動の流れを明確にして、繰り返すことで安心して活動に参加することができるのではないかと考え、「掃除道具の試作→話し合いⅠ→改善」「おもちゃの試作→話し合いⅡ→改善」と 2 回のサイクルを設けて単元を計画した。このように、掃除道具製作とおもちゃ製作の 2 回のサイクルで単元を展開するようにしたことは、「思考力・判断力・表現力」を引き出す授業作りのポイントの単元展開の工夫に当たると考える。

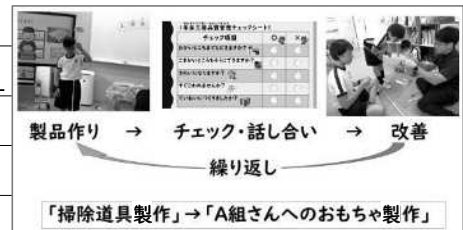
【単元目標・評価基準】 ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力人間性等

各教科等	単元目標	単元の評価基準（学部・段階）
国語科 聞くこと・話すこと	ア アンケート作成や製品改善のための話し合い活動で発表したり、話を聞いたりすることができる。	○話し合い活動における話し方、聞き方が分かり適切な受け答えをしている。（中 1） ○自分なりの伝え方を選択して、学級の友達に向けて発表している。（小 3） ○自分の思いを単語や動作で教師に伝えている。（小 2）
	イ 自分の意見を相手に伝えたり、学級の友達の話に興味や関心を持って聞き、話の内容をだいたい理解し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○学級の友達の話聞き、話の内容をだいたい理解し、自分の意見を広げたり深めたりする。（中 1） ○学級の友達の話聞き、話の内容をだいたい理解して、それに対して返事をしている。（小 3） ○学級の友達の話す様子に関心を持ち、話を聞こうとしている。（小 2）

	ウ	意欲をもって学級の友達とかかわったり、意見を伝えることを楽しんだりすることができる。	○積極的に学級の友達とかかわり、話し合ったり、自分の意見を伝えたりしている。(小2～中1)
職業科 働くことの意義 生活科 役割	ア	みんなに役立つための製品の制作を通して、働くことの大切さや目的を知ることができる。	○みんなのため役立つ製品の制作を通して、働く大切さを知る。(中1) ○相手からの謝意を期待して学級の友達と一緒に製品の製作に進んで取り組んでいる。(小3) ○教師と一緒に製品の製作に進んで取り組んでいる。(小2)
	イ	学級で協力して道具を制作し、自己の役割に気づき、製品をより良いものにするために工夫することができる。	○学級で協力して製品を製作したり、改善の方法を考えて、よりよい製品を作ろうと試行錯誤したりしている。(中1) ○学級で協力して製品を制作したり、材料や作り方を工夫して製作したりしている。(小3) ○材料等を自分で選んで、学級の友達と一緒に製作に取り組んでいる。(小2)
	ウ	進んで制作に取り組むことができる。	○よりよい製品づくりのために責任感をもって製作に取り組んでいる。(中1) ○進んで製作に取り組んだり、相手に製品を届けたりすることができる。(小3) ○楽しく製作に取り組んだり、相手に製品を届けたりすることができる。(小2)

【単元計画】

次	活動概要	学習内容
1	導入	○オリエンテーション ○アンケート作り・実施
2	掃除道具製作	○製品作り（試作） ○チェック ○改善に向けた話し合いⅠ ○改善作業
3	小学部さんへおもちゃ制作	○製品作り（試作） ○チェック ○改善に向けた話し合いⅡ ○改善作業
4	まとめ	○製品の仕上げ ○製品の納品 ○振り返り



ウ 話し合い活動及び改善作業について

中学部の授業研究の中心に掃除道具とおもちゃの改善に向けた話し合いと、話し合いを基にした改善作業を位置付け、「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りのポイントと照らし合わせながら、手立てについて検討を行った。まず、話し合い活動及び改善作業の目標を設定した。

なお、この活動は単元の中では特に「思考力、判断力、表現力」の育成に着目して授業を行っていくこととするため、「思考力、判断力、表現力等」の目標を設定する。

【話し合い活動及び改善作業の目標】

教科	学部・段階	目標	対象
国語科	中学部 1 段階	話し合い活動のなかで、自分の意見を伝えたり、学級の友達の意見を聞いて自分の考えを広めたり、理解を深めたりすることができる。	生徒 γ
	小学部 3 段階	自分の考えを整理して、話し合い活動のなかで、自分の意見を伝えることができる。	生徒 δ
	小学部 2 段階	話し合いに参加し、自分の思いを伝えることができる。	
職業科	中学部 1 段階	話し合いを受けて製品をよりよいものにしようと工夫することができる。	生徒 γ
生活科	小学部 3 段階	製品をよりよいものにしようと工夫することができる。	生徒 δ
	小学部 2 段階	自分なりに製品をよりよいものにしようとするすることができる。	

以上の目標が達成されるように、授業作りのポイントに沿った手立てを以下のようにとっていくこととした。

□コミュニケーション支援

- ・コミュニケーションマインドを育む成功体験
- ・発信が確実になったり、手段の幅が広がったりするような I C T 機器の活用も含めた支援
- ・自分の伝えたいことが明確にイメージできるように、実際に自分の試作品を使ってみる活動を取り入れる。
- ・自信をもって発表に取り組むことができるように V O C A やコミュニケーションカード等のツールを準備する。
- ・友達の発表に対し、反応しやすいように「いいねカード」と「もっとおしえてカード」を作成する。



□話し合い活動の工夫

- ・友達と意見を出し合いながら、自分の考えが深まるような支援

- ・単元の進め方の工夫として、まず意欲をもって取り組むことができるよう、製作してプレゼンする相手やアンケートをもとに製作するもの等、自分たちで話し合いながら決めていく。
- ・自分の製品や友達の製品について考える手助けとなるよう、自分で製品の品質等を整理するためのチェックシートを準備する。
- ・自然と話し合いやコミュニケーションがうまれるよう、製作の材料について、種類や数を工夫する。

ねんせいこうぼう ひんしつかんり
1年生工房品質管理チェックシート!

チェック項目	とてもいい	いい	まあまあ
たかいところまでとどきますか?			
こまかいところもそうじできますか?			
きれいになりますか?			
すぐこわれませんか?			
ていねいにつくりましたか?			



エ 指導の実際

まず、掃除道具の改善に向けた話し合い活動Ⅰ及び改善作業に取り組んだ。話し合い活動に入る前に、自分の試作品を使って、実際に掃除を行ってみる活動に取り組んだ。その後チェックシートにチェックする時間を設けたところ、安易に◎にチェックを入れるのではなく、項目の内容をよく考えてチェックする姿が見られた（図61）。その中で、自分の作ったものをどんなふう

に改善したいかの思いをもつことができた。次に自分のチェックシートを基に話し合い活動に取り組んだ。チェックシートを電子黒板に提示しながら発表することができた生徒もいたが、緊張してなかなか自信をもって発表することができなかつたり、自分の発表に気を取られ過ぎて、友達の意見を聞く事が難しい様子が見られたりした（図62）。また、「いいねカード」と

「もっとおしえてカード」が手元にあっても、友達の発表を聞いてからどのように出せば良いのか分からないようだった。結果として、双方向のやりとりとなる話し合い活動とはならなかった。最後の改善作業では、はじめは一人一人がそれぞれで取り組んでいたものの、だんだんと友達同士でやりとりし教え合いながら進める様子が見られるようになった。友達の困っていることを改善するために、用意した複数の材料の中から良いものを選んで教えようとする生徒もいた。

ねんせいこうぼう ひんしつかんり
1年生工房品質管理チェックシート!

チェック項目	とてもいい	いい	まあまあ
たかいところまでとどきますか?			
こまかいところもそうじできますか?			
きれいになりますか?			
すぐこわれませんか?			
ていねいにつくりましたか?			

【図 61 生徒δのチェックシート】

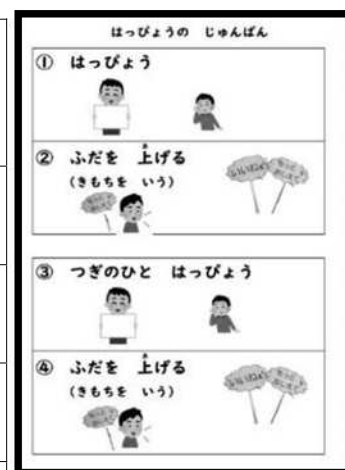


【図 62 緊張して友達の発表が聞けない様子】

掃除道具の改善に向けた話し合い活動Ⅰからは、まず生徒が自信をもって発表できるような支援を行う必要があることが分かった。さらに、教師が生徒の意図をうまく汲み取りながら、話し合い活動が活発になるような支援を行う必要があることも分かった。本研究授業では、生徒が発表しても、全体で共有したりする様子は見られず、「いいねカード」等を有効に使用できなかったという反省点が挙げられた。以上のことについての改善策について検討を行った。

検討の結果「おもちゃ改善に向けた話し合い活動Ⅱ及び改善作業」の研究授業では、以下の5点をメインに手立てをとることにした。

①	生徒が発表の流れを理解しやすくするとともに、教員が生徒の意見を拾いまとめる手伝いをしやすくなるように、3時間目の全体での話し合いの前に2時間目に小人数グループでの話し合いの場を設ける
②	話し合いの進め方をプリントにまとめて提示し(図 63)、少人数グループでの話し合いでは、まず教師が同じチェックシートを使つての発表の手本を見せる。
③	「いいねカード」・「もっとおしえてカード」を出すタイミングを伝え、少人数グループで出す練習を行う。
④	全体で生徒の意見を共有ができるように、生徒の発表の後に教師が具体物(おもちゃ)を示しながら生徒の意見を補足する。
⑤	「いいねカード」を上げるタイミングが分かり、どの生徒も安心してカードを上げることができるように教師が合図を出す。



〔図 63 話し合いの進め方〕

具体的には以下のような授業の流れとした。

活動内容	指導・支援
○本時の流れを知り、めあてを確認する。	○学校のために自分たちで製作を行うことを意識できるように掃除道具製作で褒められたこと等を共有する。
○製作したおもちゃを振り返る。	○製作したおもちゃについて、どんな風に遊ぶか、数や手触りはどうか等尋ねる。
①おもちゃで遊んでみる。	○製作したおもちゃを確認する視点を示す。・色はきれいにぬっているか ・小学部1、2年生の好きな色は入っているか ・数は十分か 等
②チェックシートを記入する。	
○おもちゃの工夫について話し合う。	○話し合いの仕方を示し、教師がロールプレイを行う。
・生徒3人＋教師1人グループで話し合う。	○発表したことに対してなぜそう思ったのか聞いてみる。
	○積極的に発言できる雰囲気をつくるため、発言に対して肯定していることが伝わる言葉かけをする。
	○コミュニケーションカードや VOCA を使い、発表の準備をしたりする。

○学級でおもちゃの感想や工夫について話し合う。	○確認する視点に対してどうだったか問いかける。 ○意見を共有したり、コミュニケーションカードやVOCAを準備したりする。 ○出た意見をホワイトボードに記入する。 ○意見を出すことが難しい場合は、これまでしてきたことに「いいねカード」、「もっとおしえてカード」を出す等の意見の表出の仕方を準備する。 ○積極的に発言できる雰囲気をつくるため、発言に対して肯定していることが伝わる言葉かけをする。
○製作制作を行う。	○発表に対してどう反応したらよいか教師が手本を示しながら活動するようにする。 ○製作の中で、必要な場合には教師がサポートややりとりの仲介を行う。 ○スムーズに製作できるよう、道具や材料を種類ごとに分けて準備しておく。 ○うまくいってない時は助言する。場合によっては手伝う。
○次時の見通しをもつ	○次時に製作の続きを行い、実際に届けることを視覚的に伝える。

今回の授業を通し、対象生徒にどのような変化があったか確認した。まず、小グループでの話し合い活動では、生徒が発表の流れを確認し、教師が生徒の意見を一緒にまとめる時間を設けたことで、「いいねカード」を生徒がよく上げることができるようになった。自分の発表に対しカード等での応答があることが分かり、自分が発表した後に「反応どうだろ？」と言う姿が見られた。反応をもらうことが嬉しいことと感ずることから、今後相手にも反応を返そうという気持ちに繋がっているようだった。

「小グループで発表する・相手の話を聞く→カードをあげて応答する」流れができると、学級全体での話し合い活動では自信をもって発表できる（図 64）だけでなく、「もっとおしえてカード」を上げて、質問する生徒も現れ、「発表する→反応や質問をもらう→それに答える」という話し合いの第一歩のような場面も生まれた（図 65）。



〔図 64 ICT 機器を使った発表〕

小グループで発表する練習を行う中で、教師と確認しながら自分の意見を整理する準備を行ったことで自信をもって伝える姿が見られた。小グループで練習を行ったことで、自信と安心感をもって伝えることができたと考える。



〔図 65 学級全体での話し合いの様子〕

オ 対象生徒の様子と評価について

ここからは対象生徒の様子と評価についてまとめる。

【生徒γ】

生徒γは掃除道具改善に向けた話し合い活動Ⅰでは自分のチェックシートをもとに発表することができたが、チェックシートの自由記述の気付きには何も記載がなかった。話し合い活動では、友達からのアドバイスも出ていたが、その場では受け止めていない様子だった。改善作業の中で、友達に教えてもらって補強することができた。

おもちゃ改善に向けた話し合い活動Ⅱでは、チェックシートに小学部の好きなキャラクターが足りないことを記載する等、話し合いの進め方に慣れて、伝えたいことをしっかり考える様子が見られた。少人数での話し合いの場をもつことで、自分の考えを整理しながら意見を伝え、友達の意見に注意を向ける様子が見られた。話し合った結果をもとに、小学部の児童の好みの色等を確認しながら製作に取り組むことができた(図66)。話し合い



〔図 66 色を確認する様子〕

活動および改善作業の個人目標の評価は、友達の意見を聞いて受け止めることはできたが、自分の考えを深めるまでには至らなかったため、国語科については△と評価した。話し合った内容を改善に活かすことができた点で、職業科は○と評価した。

【生徒δ】

生徒δに対しては発表を支援するツールとしてドロップタップ等のアプリケーション、画面を押すことで評価を選ぶことができるパワーポイント等を準備した。話し合い活動Ⅰの掃除道具の評価の時にはチェックシートを自分で悩みながらつけていき、「これちがう」「これそう」等自分の意見を確認したり、教師にチェックシートを使って説明したりする様子もあったが、全体での話し合いでは緊張して取り組むことができなかった。発表への見通しの立たなさから自信がなく、下を向いて友達の発表を聞くことができない様子があった。



〔図 67 小集団でカードを出す様子〕

そのため、話し合い活動Ⅱでは少人数で話し合い練習をした。発表の流れが分かり見通しをもったため、学級全体での話し合いで、自分から友達の意見に「いいねカード」を出して反応し、言葉をかける等楽しみながら参加する様子が見られた(図67)。話し合い活動及び改善作業の目標の評価は、国語科、生活科どちらも○達成できたと評価した。

カ 本取り組みの成果と課題

【成果】

中学部の研究を進める中で、「自分の思いをもつ→表現する→相手の意見を聞く、受け止める→自分の考えを深める・発展させる、意見を返す→話し合いになる」という「話し合い活動」の段階のイメージを中学部内で共有できたことは、各学年の実態を把握する上で有効であったと考える。

この研究授業では、中学部1年生の実態を踏まえ、「自分の思いをもつ」、「表現する」、「相手の意見を聞く、受け止める」の段階を中心に手立てを考えた。具体物を操作しながら考える活動を取り入れたり、考える視点となるようなチェックシートを用意したりしたことは、生徒が「自分の思いをもつ」ために役立てることができたと考える。小集団の中で話し合いの流れを確認したり発表練習を行ったりしたことで、学級全体でも自信をもって発表するこ

とができたが、生徒が自分の思いを伝えるには、生徒が安心感と自信をもつことができるということが大切であることを、再確認することができた。

「相手の意見を聞く、受け止める」ことをねらって、「いいねカード」・「もっとおしえてカード」を準備し、話合いの流れの中でカードを上げるタイミングを視覚的に示した。また、教師がカードを上げる合図を出すようにした。このカードを出すことは、生徒が自分の気持ちを出すことへの心理的なハードルを下げることに繋がった。また、生徒に聞き手としての意識をもたせることにもなったと考える。相手の意見をしっかり聞いた上で、「いいねカード」を出すことができるようになった。話合い活動を充実させる上で、聞き手としての力を育成していくことも重要であることが分かった。

【課題】

生徒は話合い活動の目標を、「話合い活動の中で学級の友達の意見を聞いて自分の考えを広めたり深めたりすることができる」と設定したが、話合い活動の中では自分の意見を述べるだけにとどまった。話合いの経験を積むことで、相手の意見を受け止めることができるようになってはきたが、まだ、相手の意見を聞き質問のカードを使ってさらに知ろうとしたり、自分の考えを深めようとしたりする姿までは見られなかった。目標を達成するためにチェックシートの事前記入や少人数での話合い等の手立てだけでは不十分であったと考える。今後、話合い活動の中で、より自分の意見を顧みることができるような手立てや、相手の意見を聞いて、そこから考えを変容させたりする手立ての検討を行っていきたい。

また、発語が難しい生徒が思いを表現するための手段の拡充を、ICT機器の活用も含めて今後も目指していくとともに、行動や様子から思考や判断を読み取る段階にある生徒についても、的確に読み取ることができるように工夫していきたいと考える。

【第2回研究授業及への展望】

中学部第2回研究授業を中学部3年生の生活単元学習で行う予定である。第2回研究授業では第1回研究授業の成果と課題を踏まえ、次の2点を取り入れた授業作りを行うこととした。1点目は、各学級の実態に応じてペア活動や少人数での話合いを取り入れることである。その際、座席のレイアウトや、グルーピング等の工夫をして会話がしやすい環境作りを行う。2点目は、生徒が思考する手立てとして、考える内容や観点を示したチェックシートを用意したり、話合いの手順やルール等の視覚的支援を行ったりすることである。現在、すでにこのような手立てをとりながら、学習活動全般において朝の会や昼休み等少しの時間でも話し合う機会を作り、経験を積んでいっている。

また、中学部3年生の生徒の実態を踏まえると、生徒の強みに応じた役割の設定が有効であると考えられる。司会や記録等の役割を通して主体的、意欲的に話合い活動に取り組めるようにしたい。